

日米経済の課題指摘

東信経済
倶楽部 エコノミストが講演

東信経済倶楽部の新春講演会が26日、多治見市虎溪山町のとうしん学びの丘エールであり、バークレイズ証券マネーシング・ディレクター兼エコノミストの森田京平さんが「2017年 アベノミクスの5年目、トランプの1年目」と題して日米の経済政策を語った。

東濃信用金庫の取引先企業を対象に、約120人が出席。森田さんは「アベノミクスは4年がたち成果が問われる時」とした上で、株価と実体経済の乖

離、利益と売上高の乖離、モノ消費とサービス消費の乖離が起き、保険料値上げなどの社会保険拠出が増え、毎年実質増税となっていると指摘した。

米国については「トランプ大統領は、中間選挙のある2018年までは減税をメインに語り、経済面でプラスになりそうだが、18年以降は保護主義や排他主義を強めそう。世界にとってマイナスとなる可能性がある」とした。

(松尾法尋)



アベノミクスやトランプ米大統領の政策について語る森田京平さん。多治見市虎溪山町、とうしん学びの丘エール